

2020 年度総会開催—「菜宴」にて

2月11日(火・祝)、「菜宴」(奈良市小西町)において、奈良日仏協会の2020年度総会が開催されました。出席者24名、委任状48名、合計72名で、会員総数99名の過半数を越え総会が成立したことを確認後、三野会長を議長に議事が進められ、次のとおり議案が承認されました。1)2019年度活動報告、2)2019年度決算報告、3)2019年度会計監査報告、4)2020年度役員選出、5)2020年度活動計画、6)2020年度予算。

2019年度活動では、特別行事として協会の25周年を記念して行われた会員手作りの「フランスの音楽と文化祭」の他、フランス・アラカルト、シネクラブ、教養講座、ガイドクラブ、美術クラブ、会話講座の文化事業、交流活動、並びに広報活動が報告されました。2019年度決算は、収入602,912円、支出530,995円(25周年積立事業費200,023円含む)、次年度繰越金額1,446,954円で、三木監事より、証票がきちんと整理され正しく会計処理がされているとの報告がなされました。

役員選出では、野島副会長が理事に、代わって浅井理事が副会長になり、大内理事が退任することになりました。2020年度役員は、会長：三野博司、副会長：オリヴィエ・ジャメ、浅井直子、



事務局長：杉谷健治、理事：野島正興、南城守、藤村久美子、中辻純子、高松洋子(会計)、喜多幸子、藺田章恵、監事：三木正義、顧問：坂本成彦の陣容となります。

新年度の計画としては、引き続き文化事業、交流活動に積極的に傾注し、広報関連では、会報誌「Mon Nara」と「Mon Nara 通信」をそれぞれ年3回発行することが確認され、これに伴い、新年度予算が了承されました。2019年度決算、2020年度予算の詳細につきましては、別紙(折込)をご参照ください。最後に、浅井新副会長の就任、大内理事の退任挨拶の後、出席会員から自己紹介や近況報告をいただきました。(事務局)

総会後の懇親会

懇親会は、三野会長の開会の辞に続いて、喜多理事の司会による音楽演奏の部で始まり、藤村理事のピアノで、サティの「Je te veux (ジュ・トゥ・ヴー)」とプーランクの「Hommage à Édith Piaf (エディット・ピアフに捧ぐ)」、坂本前会長の歌「Moulin Rouge (ムーラン・ルージュ)」が披露され、続いて中辻理事の模範歌唱と指導により、全員で、「Parlez-moi d'amour (聞かせてよ愛の言葉を)」、「Les Champs-Élysées (オー・シャンゼリゼ)」を合唱しました。

ジャメ副会長の発声による乾杯の後は、「菜宴」の美味しいお料理と赤白ワインをいただきながらの会員相互の懇談の場となり、途中、奈良女子大学留学生のカルラ・パジェシーさん、奈良先端科学技術大学院大学教授のラッペン・ゲナエルさんのフランス人ゲストの紹介、新入会の島本たい子さん、品川ミツ子さん、森本恭子さん、吉村公彰さん、白鳥保二さんから自己紹介をいただきました。最後に、南城理事ご提供の奈良県立美術館他招待券5名分を賞品にじゃんけん勝ち抜き戦を行ない、浅井新副会長の挨拶で閉会しました。

《事務局からのお願い》 会員名簿を更新する時期になりました。記載事項に変更のある方は3月31日までに、下記のいずれかの方法で変更内容をお届けください。1) Mail : sugitani@kcn.jp 2) FAX : 0742-62-1741 3) 郵送 : 〒630-0224 生駒市萩の台3-2-13 杉谷方 奈良日仏協会事務局 ※お名前以外の掲載事項は自由に選択することができますので、掲載項目を変更したい方はその旨ご連絡をお願いいたします。

音楽演奏者の感想

◆◆◆ 一杯やりながらワイワイ、ガヤガヤ歌にお喋りに、パリにいたころ何度か足を運んだ「Lapin Agile」の光景が思い出され 新年会の企画には、やはり *Mélo*die (フランス歌曲) より *Chanson* かな、と思いました。シンプルで美しく、楽しい曲を探すうちに、フランスの 19 世紀中葉から 20 世紀の中頃にかけて、魅力的な名曲がたくさん創られていることに気づきました。そして素晴らしいのはその音楽が映画と共に生まれていたり、その背景に深い歴史を負っていたり、他のジャンルと網の目のように密接に繋がって、実に奥深いことでした。芸術の国フランス文化の層の厚さに改めて感心しました。まさに「DOUCE FRANCE」ですね。2 曲共なかなか言葉が音についていくのは難しいですが、いつの日かスラスラと滑らかに素敵に歌える日をめざして、皆様、頑張りましょう。ありがとうございました。(藤村久美子 音楽担当)

◆◆◆ 「新年会は 25 周年のような形で…」という三野会長のご発案の下、賑やかで和やかな雰囲気の中、私も「聞かせてよ愛の言葉を」「オー・シャンゼリゼ」を歌わせて頂きました。また、皆で歌いましょうコーナーでは向けられたマイクに積極的に歌われる方、困惑される方…さまざまでしたが、留学生のカルラさんが古いシャンソンにも拘らず、はにかみながら歌われたことも印象的でした。皆様に心より感謝致します。(中辻純子 (梨里香))

参加者の感想

◆◆◆ 私は新会員として、総会と懇親会に始めて参加させていただきました。新入会員の挨拶もあるとお聞きしていたので、緊張していましたが、懇親会最初の音楽の部ですっかり緊張も解けてしまいました。特に *Parlez-moi d'amour* の美しいシャンソンには心を揺さぶられました。その後の食事会でも会の温かい交流の輪に加わる事ができ、改めて入会できたことを嬉しく思いました。(島本たい子)

◆◆◆ ふだんは欠席続きですが、懇親会ではなじみの方々と歓談。ピアノの美しい音色、シャンソンは唄声の魅力はもちろん、フランス語そのものに惹かれました。今年は、たまたま隣りあったバルザック研究の村田京子さんから、ご専門のことや、フェミニズムのパイオニアであるジョルジュ・サンドの世界的な人気のことなどをお聞きし、この会ならではの知をいただきました。文化の交流をめざす集いの素晴らしい深さ、大切にしましょう。(泉 悦子)

◆◆◆ フランス好きの仲間が集まりゲストたちと共に、今回もまた心なごむ楽しい時間を過ごしました。役員の皆様、有難うございます。新しい会員の方々ともお近づきになれて嬉しいことでした。坂本さんの歌唱 *Moulin Rouge* を聴いて「あれ？馴染みあるメロディーだけれどフランスの曲だったの」と不思議になりました。帰宅して YouTube で英語の歌詞と聞き比べ、昔のパリ風情に重ねてこの歌を再度楽しんだ次第です。(濱 恵介)

◆◆◆ 初めての総会参加。多少緊張していましたが、和やかな雰囲気、円滑な進行でリラックス出来ました。懇親会も、美味しいワインと料理を味わいながら、本当に多士済々の出席者の方々と話ができて、楽しく過ごせました。願わくば、もう少し時間が欲しかった。もっと色々皆さんのお話をお聞きしたかった、それが少し残念。役員、幹事役の皆様、有難うございました。Vive Association Franco-Japonaise de Nara ! (白鳥保二)

◆◆◆ 久しぶりに総会と懇親会に参加させて頂きましたが、新しい会員の方々が多く参加されておられたのが印象的で、新鮮に感じました。また、懐かしい方々とも親しくお話しさせて頂く事が出来た事を、大変嬉しく思いました。将来の発展を予感させるいい雰囲気の懇親会だったと思います。(大西 弘)

◆◆◆ 奈良日仏協会 2020 年度の総会、新年会に参加できましたことは大変嬉しく意味深いことでした。フランスの音楽と楽しいお話、そしておいしい食事にワインがあって素晴らしいひと時でした。今後いろんな活動に参加してフランスの豊かな文化とエスプリに触れて、私のタペストリー制作に活かせたらと思います。(森本恭子)

◆◆◆ Je m'appelle Carla, je suis Française et je suis étudiante à Nara joshi daigaku. J'étudie le japonais depuis le lycée puis j'ai poursuivi l'apprentissage du japonais à l'université. J'aime beaucoup la langue japonaise (les sonorités, les caractères) et aussi l'histoire du Japon, en particulier la période Edo. Mon rêve est de posséder ma propre boulangerie au Japon. Aujourd'hui, j'ai été invitée par l'Association franco-japonaise de Nara à une petite fête. J'ai



été très heureuse de participer à cet événement. Ça m'a fait plaisir de voir des gens passionnés par la France, autant par les chansons, que par la littérature, en passant par l'histoire. J'ai particulièrement été étonné d'entendre M. Sakamoto chanter en français : j'ai trouvé qu'il avait très bien chanté. En outre, tout le monde parlait plutôt bien français. Ça m'a fait plaisir de retrouver un peu de mon pays au Japon. Encore une fois, merci. (Carla Pagesy)

カルラと申します。フランス人で奈良女子大学の学生です。高校時代から日本語を勉強し大学でも学習を続けています。日本語が大好きですが(音色や文字)、日本の歴史(特に江戸時代)も好きです。日本でパンのお店を持つことが夢です。きょうは日仏協会の懇親会に参加して、シャンソンや歴史を通じた文学の話など、フランスが大好きな人たちとお会いできて、とても嬉しいです。坂本さんがフランス語で唄うのを聴いて本当に驚かされました。すごく上手に唄っておられました。みなさんフランス語を上手に話していて、日本で自分の国のことを少し再発見したのも嬉しかったです。ありがとうございました。

ジュール・イルマン在京都フランス総領事との懇談会

10月30日(水)13時45分～15時、会員の久保田さんの店である「菜宴」に、この9月に新しく着任されたジュール・イルマン在京都フランス総領事をお迎えして、奈良日仏協会役員との懇談会が開催されました。協会側の出席者は、三野会長、ジャメ副会長、杉谷事務局長、浅井理事。この他に、総領事が奈良在住のフランス人と会うことを希望されたので、ラッペン ゲナエルさんとノエル・オージェさんも同席されました(お二人については、それぞれ「Mon Nara」2019年2月号と10月号に掲載されています)。出席者の半数がフランス人となったので、会話の大半はフランス語で、そこにとときどき日本語が混ざるかたちで行われました。総領事はパリ東洋言語文化学院日本語科で日本語を学ばれ、その後、2回にわたって通算9年、在日フランス大使館に勤務されました。たいへん頭の回転が速く、闊達で、気さくで、各地の日仏協会との交流にも意欲的であり、呼ばれたらどこへでも行きますとのこと。総領事秘書の北川さんからも今後の活動についてのアドバイスをいただき、当協会と総領事館との今後のいっそう緊密な交流に期待したいと思います。(三野博司)



Nos amis francophones à Nara (14) Nicolas Maini (ニコラ・マイニ) さん

Bonjour. Je m'appelle Nicolas et je suis guide touristique. Je vis à Kyoto depuis plus de trois ans et j'ai eu la chance de découvrir le Japon en 2014 lors d'un voyage organisé en partenariat avec les villes de Chartres et Sakurai, où se trouve le fantastique Hase-dera. À Nara, je me rappelle l'émotion ressentie lors de ma première visite du Todai-ji, de la chance incroyable de pouvoir marcher au milieu des daims et de l'atmosphère si particulière de l'ancienne capitale.



Aujourd'hui c'est cette même émotion que j'essaie de transmettre à mes clients quand nous venons à Nara. Avec de la chance, ils assistent à la création des excellents yomogi mochi chez Nakatanidou. Puis passé la surprise de trouver les premiers shika au pied de la superbe pagode du Kofuku-ji, direction le fameux Todai-ji, le Nigatsu-do et son super point de vue, puis balade au Kasuga-taisha en passant par sa magnifique forêt primaire aux milliers de lanternes.

Moins touristique, c'est un plaisir aussi de faire découvrir le lac Sagi et prendre le temps de faire une pause au Ukimi-do, de se promener dans les rues de Nara-machi et visiter les vieilles maisons de commerçants ou le beau jardin Isui. J'aime venir à Nara pour retrouver une certaine sérénité et me rapprocher des racines du Japon. Étant motard, j'en profite souvent pour me promener dans la région, qui est pour moi l'une des plus belles du Japon.

ニコラと申します。観光ガイドの仕事をしています。京都に住んで3年以上になります。2014年に、素晴らしい長谷寺のある桜井市とシャルトル市との姉妹都市提携の団体旅行で日本を発見する機会に恵まれました。奈良では、東大寺をはじめ訪れた時、鹿たちや古都の特別な雰囲気の中を歩くという信じがたいような経験をして、とても感激したことを覚えています。

いま、奈良にお客さんを連れてくるときに私が伝えようとしているのは、その時の感動です。運がよければ、中谷堂のよもぎ餅作りを見学し、興福寺の五重塔の下ではじめて鹿を見て驚き、東大寺の方へと進み、二月堂からの素晴らしい眺望を楽しみ、見事な原始林とたくさんの灯籠の中を歩いて春日大社へとそぞろ歩きます。

あまり有名な観光スポットではありませんが、鸛池を見つけて、浮見堂でしばらく休憩し、ならまちを散策し、古い商家や依水園の美しい日本庭園を訪れることもあります。私が奈良に来るのが好きなのは、静謐さをとり戻して、日本の根源にあるものに親しみたいからです。オートバイ乗りですので、奈良方面の散策を何回も楽しんでいます。私にとっては、日本中でもっとも美しい地方のひとつだからです。

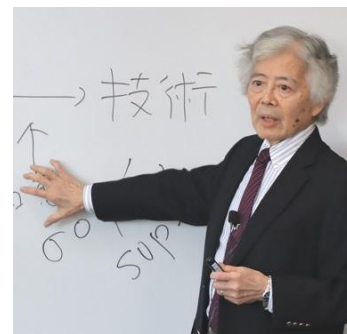
一脳の働きはこうにして解明された—フランス脳科学の歴史

秋の教養講座 2019 が、昨年 11 月 23 日（土・祝）、放送大学奈良学習センターとの共催により、同センターにて開催されました。講師は、大阪府立大学名誉教授で、当協会会員でもある角田茂先生。放送大学の受講者と合わせて 33 名が聴講しました。

角田先生のお話は脱線が多くて、それが社会の現状に対する批判もピリリと効いて面白く、先生の関心の幅広さを感じさせられましたが、講演の主軸はもちろんタイトルのとおり、フランスの脳科学の発展を辿るものです。前段として、フランス革命の時代に、化学物質を記号で表す体系を作って近代化学の祖となったラヴォアジエと、カルテを創案し精神病患者を牢獄のような境遇から助け出したピネルの二人の業績の紹介がありました。続いて本論では、脳の部位ごとに独立した機能があることを提唱したガルの説をもとに、脳のなかに、ブローカが運動中枢を、ウェルニッケが感覚中枢を発見したことを、その部位が損傷するとどうなるかという実験付きで紹介。つぎに水桶に入れた鉄に病気の部位を当てると動物磁気が流れて治癒できるとするメスメル動物磁気説について説明し、当時疑似科学として禁止されていたこの治療法に催眠療法的な要素があることに着目したシャルコーが、女性に多い体の片側が動かなくなる片麻痺の治療に応用し、その弟子筋の二人がそこから発展させた新しい学説が紹介されました。一人は催眠療法でも効き目のない患者がいることに疑問を持ったバビンスキーで、彼は器質的な欠陥を判定する簡便な方法を考え出し、もう一人は催眠療法がなぜ効果的に気づいたフロイトで、彼は無意識の世界がいろんな症状を起こすという点から患者に自覚させて治療する精神分析の手法を編み出したということでした。

脱線でのお話は、工学部は軍の需要から近年に新しくできたという話から、「知恵」という言葉は全世界的に女性の名として使われていること、サプリメントも一種の疑似科学で、「効き方には個人差があります」という宣伝の注意書きは「効果がない」という意味であるとか、植物状態の人が手を握りしめてきたからよくなってきたと喜ぶのは間違いで原始反射が抑えられてないだけとか、フロイトがマーラーの音楽に与えた影響など、ときには、処刑される場合絞首刑とギロチン刑のどちらを選ぶかという質問を投げかけたり、ここだけの話と前置きして、浮世絵の春画の話にまで及ぶ縦横無尽な話しぶりでした。

懇親会は「菜宴」にて、会員以外の 3 名を含む 12 名の参加のもと、昨年の講演者村田京子先生の乾杯でスタート、その後自己紹介を糸口に多彩な話題に広がって、おしゃべりに花を咲かせました。（杉谷健治）



教養講座を終えて

角田 茂

前年度の教養講座は、元同僚の村田京子先生がされました。聴きに来ていた私は、すぐに入会ということで、今回の教養講座を担当することになりました。「脳の働きはこうにして解明された」というタイトルで、フランス革命直後のパリ病院学派成立期における脳科学を中心に話をしました。

パリ留学中、私は高等師範学校の哲学の教授と親しくなり、2 回ほどフランス 19 世紀のサロンを思わせる宴席に出席させていただきました。そこには、文学者、音楽家、科学者、医師、弁護士など色々な職業の方がおられ、知的レベルの高い会話を、皆楽しんでいました。出席していた私は、ショパンとジョルジュ・サンドの会った、マリー・ダグー伯爵夫人のサロンを想像していました。教養講座終了後の懇親会では、色々な才能を持った方がおられ、サロン風会話を楽しむことができました。

第 144 回 フランス・アラカルト (12/15): 「フランス・クリスマス菓子講座」

12月15日、美しい青空が広がる昼下がり、奈良日仏協会会員の柳谷安以子さんがフランスの地方菓子と地方料理の教室をされているエコール・タンタンにうかがいました。

最初に、地理的気候風土や歴史的背景などの様々な要因によりフランス各地で独特なお菓子が発展してきたお話を、とても興味深くお聞きしました。そしてアルザス地方のお菓子について詳しく紹介していただき、その中から二つのお菓子を実際にご作っていただきました。

一つ目は「ブレデル」というクリスマスのクッキーです。お菓子作りといえば、粉をふるって、バターを湯煎して、という面倒な手順を想像していた私にとっては目からウロコ。粉類を全部一緒にフードプロセッサーに入れて攪拌し粉ふるいは完了。その後小さく切ったバターも投入し攪拌、次に正確に計量した卵とバニラオイルを入れて攪拌すると、あら不思議、勝手にひとかたまりになりました！生地をビニール袋に入れてめん棒で伸ばすと汚れ物もとても少なくてすみます。生地は一晩寝かせないといけませんので、先生が昨日から用意されたものを、アルザス独特の抜型で抜いて、オーブンへ。



二つ目は「ベラヴェッカ」。ドライフルーツを刻んだものを洋酒とスパイスに漬け込み、少量のアーモンドパウダーをつなぎにして、ナマコ型にします。焼きあがってから上にドライフルーツや八角を、マリネ液を煮詰めたものをノリにして飾り付けるのだそうです。その間に焼きあがったブレデルと、前もって作ってくださったベラヴェッカを、先生おすすめの紅茶「パレデテ」と共にみなさんで頂きました。

皆様がフランス各地を訪れた時のよもやま話に花が咲き、あっという間に楽しい時間が過ぎました。柳谷さんのセンスあふれる心地よい素敵なサロン、また是非訪れたいと思いました。(喜多幸子)

◆◆私は柳谷さんに、フランスの地方お菓子作りを昨年春から習っています。フランスの陶磁器やお菓子の入ったかわいいお土産の缶などで飾られた素敵なお家で、柳谷さんの体験談などをお伺いしながら、月に一度各地方のお菓子を2品作ります。フランスが好きな人なら、こういう教室を探していたのよ、と言いたくなるような、いわばちょっとマニアックな講座と言えるかもしれませんね。私は会員の方々にもこの体験をしてもらえればと思い、この企画を立てました。当日は11名もの方々に参加いただき、柳谷さんにアルザス地方のクリスマスシーズンのお菓子のご紹介や、お菓子作りを実演してもらいました。私が特に関心を抱きましたのは、「アルザス地方では、お客様を招くとき、クグロフというお菓子と現地の有名ワインであるゲヴェルツ・トラミネールを一緒にお出しするのですよ」という段で、アルザスのゲヴェルツに目がない私は、その場に参加したいなあ、という気持ちになりました。(高松洋子)

◆◆「講師の感想」：今回のフランス・アラカルトでのアルザスのクリスマス菓子講座は、フランス通の皆様にも楽しんでいただけたようで良かったと思っています。フランス地方菓子はフランス全土に80種類以上ありますが、そのお店の多くが教会の近くにありますが、日曜日に教会のミサを終え、その帰りに家族で楽しむためにお菓子を買って帰るのです。アルザスでもその例に漏れず、ストラスブール大聖堂の隣には古い歴史を持つショコラチエが。今も日曜日の午後は沢山の家族連れで賑わっています。皆さまもフランスへ行かれた際にはその地の教会を訪れることも多いかと思いますが、帰りにちょっと周りを見まわしてみてください。きっと小さなパティスリやショコラチエが見つかることでしょう。(柳谷安以子)



「ホームズ物語とフランス」(1)

長谷川 明子

今号からシャーロック・ホームズとフランスとの関係を中心に連載記事を書かせて頂くことになった。作家コナン・ドイル (Conan Doyle, 1858-1930) は、エディンバラに生まれ、エディンバラ大学医学部を卒業後、ポーツマス市で開業したが医院は流行らず、暇をもてあまして書いたのがデビュー作『緋色の研究』(A Study in Scarlet, 1887, 延原謙訳, 新潮文庫) であると言われている。

医学部の恩師ジョセフ・ベル教授 (Joseph Bell, 1837~1911) と、3人のフランス人探偵がホームズの複数のモデルと言われている。一人は実在の人物、フランソワ・ヴィドック (Francois-Eugène Vidocq, 1775~1857)、あとの二人は小説の中の人物で、エミール・ガボリオ (Émile Gaboriau, 1832~73) のルコック探偵と、エドガー・アラン・ポー (Edgar Allan Poe, 1809~49) のデュパン探偵である。(編集部注参照)

少年期からジュール・ヴェルヌ (Jules Verne, 1828~1905) の作品をフランス語で読んでいたと言われているドイルは、ヴィドックの『回想録』(Les Mémoires, 1828~29, 三宅一郎訳, 作品社)、ガボリオの『ルルージュ事件』(L'Affaire Lerouge, 1866, 太田浩一訳, 国書刊行会) などを原文で読むことが出来たと思われる。『緋色の研究』の二部仕立ての作品構成にはガボリオの影響が見られるほか、作中でもルコック探偵やデュパン探偵の名前を登場させている。一方、ホームズ作品がフランス語に翻訳されてフランス人にも広く読まれるようになるのは、1905年以降である。

ところで、ポーツマス市と姉妹都市提携を結んでいた舞鶴市は、2008年秋、提携10周年の記念行事として、「シャーロック・ホームズ&コナン・ドイル博」を開催した。その折に、もともとホームズに関心を持っていた私は、「関西シャーロック・ホームズ会」に入会した。例会での口頭発表では、語学に関わってきた者として「ホームズは言語の達人」というテーマがすぐに頭に浮かび、「言語」の視点から全作品を読み返してみることにした。探偵にとって言語は武器の一つである。大英帝国華やかなりし頃なので、英語が通用する国々は多かったろう。しかし捜査活動の中で彼が接触する一般庶民とのコミュニケーション手段は、やはりその国の言語であったに違いない。ヨーロッパ各国の事件解決には、多言語を駆使することが出来た (multi-lingual) ホームズの姿が容易に想像できる。

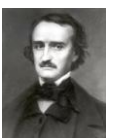
「ボヘミアの醜聞」(A Scandal in Bohemia, 1887, 新潮文庫『シャーロック・ホームズの冒険』所収) では、匿名の依頼人から英文の手紙が届くが、文法的におかしいことに気づき、「フランス人やロシア人ならこんな書き方をしない。"It is the German who is so uncourteous to his verbs." 動詞を虐待して文章の最後に持ってくるのはドイツ人だ」と推理し、差出人はドイツ (ボヘミア) の王様であることを言い当てる。ホームズがフランス語、ロシア語、ドイツ語を理解することが示されている。また、作品の冒頭では、オランダ王室依頼の事件を解決したことも書かれている。

はじめのうちは謎の多い人物として描かれていたシャーロック・ホームズだが、「ギリシャ語通訳」(The Greek Interpreter, 1888, 新潮文庫『シャーロック・ホームズの思い出』所収) という作品の中で、突然自分の出自に触れ、母方の祖母はフランス人画家ヴェルネ (Émile Jean-Horace Vernet, 1789~1863) の妹なのだと語り、ワトソンのみならず読者を驚かせる。今回はそこからスタートしたいと思う。

フランソワ・ヴィドック フランスの犯罪者。パリ警察の密偵となり、国家警察パリ地区犯罪捜査局を創設し初代局長となる。後に世界初の探偵となる。著書に『ヴィドック回想録』があり、その数奇な半生と異常な犯罪記録が探偵小説を創始したエドガー・アラン・ポー、エミール・ガボリオやコナン・ドイルに与えた影響は大きい。バルザックの『ゴリオ爺さん』などに登場するヴォートランは彼をモデルにし、ユーゴーの『レ・ミゼラブル』のジャン・ヴァルジャンも彼から着想されたといわれる。

ルコック探偵 1866年に発表されたエミール・ガボリオの『ルルージュ事件』は、世界初の長編推理小説といわれる。この話ではルコックは脇役に過ぎず、素人探偵の老人タバレが主人公。1869年発表の『ルコック探偵』(Monsieur Lecoq) は、ルコック刑事が捜査を買って出るが暗礁に乗り上げ、素人探偵の老人タバレに相談。物語は二部構成になっていて、第一部で事件の捜査と解決、第二部で事件の背後にある過去の回想が描かれる。

デュパン探偵 エドガー・アラン・ポーの、3つの短篇推理小説「モルグ街の殺人」(1841)、「マリー・ロジェの謎」(1842-1843)、「盗まれた手紙」(1844) に登場する名探偵。昼は戸を閉め切った真っ暗な部屋で強い香料入りの蝋燭に火をつけて読書と瞑想にふけり、夜はパリの街を徘徊して大都会の闇と影を愛する。警視総監 G と知り合いで、彼は解決できない事件の調査をしばしばデュパンに依頼する。(編集部注)



「モリエールの喜劇」(4)『ドン・ジュアン』(Dom Juan, 1665)

山本 邦彦

『タルチュフ』の上演禁止を食らったモリエールは、劇団の経営を維持するために、急遽新作を書かねばなりません。とりあえず当時流行のテーマに便乗することにしましたが、韻文にする時間がなく、散文のまま世に問うことになりました。それがスペインのドン・ファン伝説に基づく5幕劇『ドン・ジュアン』です。当時の作劇の規則「三単一の法則」(一日の出来事、同一の場所、一つの筋)も完全に無視した、珍しい作品です。



右 ルイ・ジューヴェ (ドン・ジュアン)

ドン・ファンは言うまでもなく女たらしの典型です。モリエールに先行するドン・ファン劇はいずれも女たらしそのものがテーマになっていて、千人斬り、二千人斬りを誇る色事師の冒険譚です。後のモーツァルトのオペラ『ドン・ジョヴァンニ』(ダ・ボンテ台本、1787)も同様です。ところがモリエールの『ドン・ジュアン』には意外にも、女性を誘惑する場面はただ一カ所、田舎娘シャルロットとマチュリーヌに同時に結婚の約束をして大もめするところだけです。

そのかわりに、この『ドン・ジュアン』には先行作品にない変わった場面がいくつかあります。たとえば、借金取りを言葉巧みに追い返す場面。そして何よりも印象的なのは、森で出会った乞食に「金貨をやるから神を呪え」と命じる場面。乞食がかたくなに拒むと「人類愛のためにくれてやろう」と金貨を投げ与えます。おそらくはこのあたりが宗教界の反撥を買ったのでしょう。大当たりをとりながら、15回の公演で幕を閉じなければなりません。

モリエールは当時の墮落し切った青年貴族を念頭に置いて、ドン・ジュアンを描きました。しかし従僕サガナレルを相手に吐露する快楽主義哲学や無神論や合理主義精神はそれなりに説得力があって、一面彼を魅力ある人物にもしています。

フランス語で読む「万葉集」：志貴皇子の「春の歓喜の御歌」一首

Poème du Prince de Shiki pour exprimer sa joie

石(いは)ばしる 垂水の上の 早蕨の

萌え出づる春に なりにけるかも (雑歌 巻8-1418)

Du rocher bondit / la cascade et par dessus / pousses de fougère /

faisant jaillir verdoyantes / voici venu le printemps



Le Prince de Shiki, fils de Tenchi-Tennô, avait été l'un des six qui avaient prêté le serment de Yoshino. Il mourut en 715 [sic : 原文ママ], mais son fils, le Prince de Shirakabi [sic : 原文ママ], règnera de 770 à 781, et fut le père de Kammu-Tennô, le fondateur de Heian-Kyô, en 794.

(*Man.yôshû Livres VII à IX*, présenté, traduit et commenté par René Sieffert, UNESCO, pp. 154-155.)

「石ばしる」は水が石に当たってしぶきをあげる様。「垂水の上」は「滝のほとり」の意。「垂水のうへの早蕨の」と畳みかける勢いのある調べが、ほとばしる春の生命のよろこびを歌い上げています。

蕨は山、野、谷などに見られる羊歯植物。萌え出て間もないものを「さわらび」「うちわらび」などと言われ現代に同じです。さわらびは「早蕨」と書くのが普通になっていますが、元来「さ」は「小」で、「早」の意ではありません。この「さ」は愛らしいものに讃美の心をこめて冠したようです。

作者の志貴皇子(施基皇子)(生年不詳~716年)は、天智天皇の三男で当人は皇位こそ未踏でしたがその息子(白壁王)は奈良時代最後の天皇である光仁天皇(桓武天皇の父)となり、現在の皇統と直結の方です。光仁天皇は前任の孝謙(称徳)女帝の専制のもとで雌伏しつつ天武天皇系の終焉を待って、遂に天智天皇系の復活を果たし、息子の山部皇子を擁立、桓武天皇となって平安京の遷都実現(794年)にこぎつけたのです。この時期にも、明治維新に匹敵するほどの大きな歴史転換のドラマがありました。(中浦東洋司)

法人会員紹介

野菜ダイニング「菜宴」

近鉄奈良駅より徒歩 1 分の好立地。白を基調にした明るい店内は、デートや女子会、ご友人とお食事などオシャレをして過ごしたくなる大人な雰囲気です。料理、ドリンクともにリーズナブルな価格で提供、女子会や 2 次会パーティーに同窓会など、各種宴会にもご利用いただけます。店内のレイアウトもご利用シーンや人数に合わせて変更も可能で、音響設備などのアメニティも揃っておりますので、素敵な演出のご相談もお気兼ねなくお問い合わせください。



シェフ紹介：久保田耕基（くぼた こうき）さん

専門ジャンルは洋食全般。フランスとの交流を続けながら、アクティブに活動する料理人です。若い頃、フランス料理店に就職したのがきっかけで、本場に行きたいという思いが強くなりました。21 歳の時、フランスのアルザスから来ていた友人の実家が料理店経営と知り、その紹介で渡仏し、本場の料理に触れることが

できました。帰国後、知人の声掛けで、奈良駅近くのホテルでビュッフェ形式のレストラン「らんぷり〜る」をオープンし、多くの方に楽しんでもらうことができましたが、もっとひとりひとりと触れ合いができるお店にしたいと、今の「菜宴」をオープンするに至りました。

会員の声：「らんぷり〜る」の時代から、奈良女子大学の懇親会、コンパの会場としてお世話になりましたが、「菜宴」は奈良日仏協会の quartier général であり、また個人的にも久保田さんの料理を愛好しています。（三野博司）



奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F
Tel : 0742-26-0835 不定休
昼 11:00~15:00 (14:30 ラストオーダー)
夜 17:00~22:30 (21:30 ラストオーダー)

ワインショップ「サン・ヴァンサン」

ワインをブランドや価格で選ぶのではなく、本当に飲み頃となった、今飲んで美味しい世界各国のワイン（フランスをメインにイタリア、スペイン、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、チリ、ドイツ、南アフリカ、アルゼンチン、日本）を、2000 種類以上取り揃えております。品質保持にはこだわって、店内は 24 時間 365 日、定温管理しています。当店は数多くのレストランにもワインを納め、大量に仕入れている為に商品をより安く仕入れ、専門店でありながら価格もとてもお買い得になっています。



店長紹介：竹中宣人（たけなか のりひと）さん

ワインを本場のフランスで勉強したいという思いから、ベルギーでフランス語の勉強をしながら独学でワインを学び、その後ブルゴーニュに移り、さらに 1 年間ディジョンの学校でワインの勉強を続けました。小さなシャトーを買収して現地事務所を立ち上げた会社に駐在員として採用され 2 年半ブルゴーニュに滞在、その間いろんな地方のワイン産地を訪ね歩きました。

2002 年に酒類販売の免許を取得し、東生駒に奈良初のワイン専門店をオープンしました。東生駒では 9 年半ワインショップを続けましたが、ワインを販売する上でより立地に恵まれた場所を求めて、現在の学園前に移転しました。

ここで、現在おすすめのボルドー・ワイン「シャトー・マルテ レゼルヴ・ド・ファミリーユ 2015」（右写真）を紹介させていただきます。2005 年の当たり年に造られた 100%メルロー（葡萄の品種）らしい、滑らかで濃厚な味わいです。濃密でありながら素晴らしいバランスです。通常 4,200 円のところを当店では 3,280 円で販売していますが、奈良日仏協会の会員様にはさらに特別に 3,000 円で提供させていただきます。

会員の声：お店にはブルゴーニュとコートデュローヌがよく揃っていますが、どんなワインでも取り寄せてもらえます。店長はワインのことを親切に教えて下さいます。私はいつもサン・ヴァンサンを利用しています。（小寺順子）



奈良市学園朝日町 2-2 米田ビル 102
Tel : 0742-43-3832 月曜定休
火~土 : 10:00~20:00
日・祝 : 10:00~19:00

会員紹介

映画に魅せられて

吉村 公彰（よしむら きみあき）

藤村理事の知人の方の紹介で、宇陀市のハワイエ・ヴェールでのコンサートに何回か参加したことがありましたが、そのご縁もあって、昨年6月の日仏協会創立25周年記念の「フランスの音楽と文化祭」に参加しました。奈良日仏協会が多様な活動をしていることを知って、若い頃から憧れていたフランス文化への想いが蘇り、その場で衝動的に入会申込をしました。入会後は、シネクラブやブルースト読書会に楽しく参加していますが、これから美術クラブにも参加したいと思います。

趣味は、読書（「積ん読」ですが…）、映画館へ足を運ぶ、美術館へ足を運ぶ、山歩き、音楽を聴く、等です。特に映画は、若い頃から大好きで、学校の授業や会社の仕事を終えると、すぐさま列車に飛び乗って、奈良から大阪の映画館に駆けつけていました。多い時には、年間数百本観ていたこともあります。定年退職した後、再就職しましたが、自由な時間が増えましたので、若い頃の映画熱が再燃して、最近ふたたび映画をたくさん観に行くようになりました。

フランス映画では、『天上棧敷の人々』（1945）が今でも私のベストワンですが、ジャン・ルノワールの『大いなる幻影』（1937）、ジャック・フェデーの『女だけの都』（1935）といった古典的な名作も好きです。トリュフォー、ゴダール、ルイ・マル、アラン・レネといったヌーヴェルヴァーグの監督の作品も好きです。

先月は、結婚30周年記念に、夫婦でヴェネチアに旅しました。数々の映画のロケ地になっているヴェネチアの建造物や風景を実際に見ることができて、とても感動しました。



「ボルドー、パリを訪れて」

長子 雅子（ちょうし まさこ）

2年前、ボルドー・モンテーニュ大学（Université Bordeaux-Montaigne）に交換留学していた長女に会いに、次女と一緒にボルドーとパリを訪れました。長女の寮は大学の敷地内にあり、部屋の広さ9㎡でコンロ1口、トイレ横の洗面台がシンク兼用になっている不便な造りでしたが、それでも慣れたようで一人暮らしを楽しんでいました。家賃は月248ユーロ。フランスの大学寮はCrousという組織が一括管理をしているので、同じ寮に近隣の他の大学の学生も同居しているのだそうです。すぐ隣には3ユーロでビュッフェランチが食べられる学生食堂もあり、多国籍の学生との異文化交流を楽しんでいる様子でした。

留学で成人式に出られなかった娘の20歳の写真を撮るために、スーツケース半分に振袖一式を詰め込んで持って行きました。長女ははるばる着物を持ってきたことに驚いていましたが、振袖を着て（何故か妹も）ボルドー郊外のLa Grande Maisonというレストランでのお祝いを喜んでくれました。19世紀の邸宅がホテルとレストランになっていてお庭が素敵でした。お料理もワインも申し分なかったです。

ボルドーといえばワインですが、昔からの友人夫妻がボルドーのBlayeという地域でワインを造っています。その友人に招かれて、シャトーに泊めていただきました。フランスではBIO（オーガニック食品）が人気ですが、彼らの畑も早くからdemeterのbiodynamie（バイオダイナミック農法）の認証を受けており、毎年厳しい認証の検査が行われるので大変だと言っていました。それでも環境に優しく消費者に安全安心なものを届けたいというフランス人の意識の高さを改めて感じました。

その後週末に3人でパリに移りPalais Garnierでオペラを鑑賞（右写真）。その際も娘たちは振袖を着たのですが、多くの方に写真撮影を頼まれました。やはり日本文化は人気が高いですね。目的の娘の多くの写真とフランス語の勉強意欲が高まったのがこの旅の収穫でした。



桜井とシャルトルの日仏文化交流活動の紹介

奈良県桜井市とフランスのシャルトル市（パリの南西 88km に位置）は、1989 年 4 月に友好都市協定を結び、昨年 2019 年は調印 30 周年を記念して、桜井とシャルトルの両市にて、様々な交流行事が開催されました。奈良とフランスの日仏文化交流を図ることを活動目的とする私たち奈良日仏協会としては、今後、広報はじめ様々な形で、桜井とシャルトルの交流活動に協力していければと思います。ここで、これまでの両市の交流の歩みと 2019 年度の行事を簡単に紹介させていただきます。

1995（平成 7）年に、市民同士が国際交流を推進していくことを目指して桜井市国際交流協会（SIFA : Sakurai International Friendship Association）が設立されました。それ以前も、両市の小学校の絵画交流や、シャルトル市の高校生をホームステイとして受け入れるなどの交流はありましたが、SIFA の活動によって、文化交流の機会が大きく広がりました。「桜井市におけるフランス年」事業（1998 年）、桜井市からシャルトル市への訪問団派遣（2000 年）、シャルトル混声合唱団受け入れ事業（2002 年）、シャルトル商業フェア参加（2006 年、2008 年）、談山雅楽会による雅楽コンサート（2008 年）、シャルトル市在住の芸術家による絵画や写真の作品の展示、シャルトル市を中心に活動する音楽家と桜井市内の音楽家とが一緒に行う交流コンサートの開催などです。

その他、英語やフランス語のサロンを開いたり、桜井市で働く外国人のための日本語学習をサポートし、日本文化を広く体験できる様々なイベント（茶道・能・料理等）を開催しています。両市の姉妹都市提携を機に、シャルトルには「Jardin Sakurai 桜井公園」、桜井には「シャルトル公園 Le Parc de Chartres」が造られましたが、桜井ではこの公園の花壇を維持管理する美化活動が定期的に行われています。いっぽうシャルトルの桜井公園では、2019 年 12 月に新たに桜の苗木を植える行事が行われました。

2018 年、熊本市での日仏自治体交流会議に出席するために来日したシャルトル市のパトリック・ジェルデ副市長が、桜井にも 3 日間滞在し、長谷寺他の社寺を見学し、談山神社では蹴鞠を楽しみました。

30 周年にあたる 2019 年度は、9 月に桜井市に所在する長谷寺の田代弘興化主と約 10 名余の同寺僧侶の皆さんが、シャルトル市を訪問して、シャルトル大聖堂との異宗教間対話行事が催されました。SIFA メンバー有志も同行し、ジャン＝ピエール・ゴルジュ市長やパトリック・ジェルデ副市長らに温かく出迎えられました。2 日の午後には、市内中心部のマルソー広場にて、たくさんのシャルトル市民の前で、長谷寺の僧侶の皆さんによる太鼓の演奏が行われました。この日はお天気にも恵まれて、夏の終わりの快い一日となったそうです。筆者の知人でシャルトル市から 25 キロ程の所にあるイリエ＝コンブレ近郊に住む日本びいきのフランス人夫妻も、この演奏を見物し、SIFA メンバー有志のために、シャルトル市内を案内してくださったそうです（右写真）。

一方、桜井市では、8 月に奈良県国際交流員のヴェロニク・ドニ＝ラロックさんによる、子供を対象にしたセミナー「フランスって知ってる？」をはじめとする諸行事が開催されました。

2020 年 1 月 26 日、桜井市図書館ホールにて行われた SIFA フェスティバル「フランスな一日を楽しもう！」では、シャルトル市紹介ビデオの上映、フランスの絵本の読み聞かせ、ボース平野（フランスの穀倉地帯）産の小麦を輸入して、日本でシャルトルブランドの小麦粉を販売している会社の社長さんによる、フランスの農業や文化の紹介、ソプラノ歌手の方によるフランスの歌が演奏されました（右写真）。フロアにはフランス人によるフランス語体験コーナーや、シャルトル産の小麦を使ったフランスパンや食パンの販売コーナーが設けられ、さっそく購入して家で試食してみました。とても美味しかったです。

2 月 9 日、桜井市図書館研修室で行われたサロンセミナーでは、SIFA でフランス語講師をされている世古昌人先生による「フランスに魅せられて」と題した講演を聴くことができました（右写真）。先生は、天理大フランス学科卒業後、在外公館派遣員として在セネガル日本大使館に 3 年間勤務、その後、フランスのブルゴーニュ大学にて 3 年間哲学を勉強され、現在は、毎年一ヶ月ほどフランスとアフリカのコンゴに出かけておられるそうです。画像資料を用いながら、ご自身の豊富なフランス語圏での生活体験に基づいて、フランス語とフランスの国の魅力、一般的なイメージとの違い、じっさいの日本とフランスの違いについて、ユーモアをまじえながら、奥の深い考察をしてくださいました。さいごに『星の王子様』からの一節「Ce qui embellit le désert c'est qu'il cache un puits quelque part.」 「砂漠が美しいのは、どこかに井戸を隠しているからだよ」を紹介しながら、自分自身のスタイルや生き方を見つけることが大切と締めくくられ、質疑応答では、フランスとの交流を通して学んだことは、自分自身と日本の文化の再発見にもつながっている、と話されました。とても面白くて、含蓄のある、聴きごたえのある講演でした。（浅井直子）



奈良日仏協会 会員主催の各種講座案内

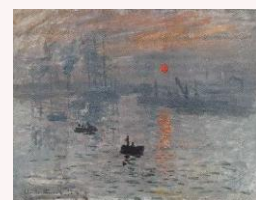
(2020 年 2 月)

曜	時 間 帯	場 所	講 師	内 容、教科書	問 合 せ 先
月	9:45～11:45	生駒市コミュニティ センター 2 階会議室	三野博司	「学び直しのフランス語」 もう一度しっかり 学びたい人向けです。ことばの仕組みや表現を 学び、フランス文化の奥深い魅力を探ります。	mino.hiroshi @gmail.com (三野)
火	12:30～14:00	奈良フランスクラブ 〒630-8421 奈良市 藤原町 1028-35	オリヴィエ・ ジャメ	Conversation, expression, écrit et écoute Echo 1 (CLE International) « A la page 2019 » (Ed. Asahi)	Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770(ジャメ)
火	19:00～20:30	同上	オリヴィエ・ ジャメ	仏検の準備専門的講座 毎回、仏検 3 級と準 2 級の準備するため様々な 練習 テキスト 駿河台出版社	同上
水	10:00～11:30	同上	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 入門 テキスト Nouveau Spirale スピラル(Hachette)	同上
水	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ ジャメ	仏検の準備専門的講座 Echo B1 (CLE International)	同上
木	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Echo 2 (CLE International) Préparation DAPF-DELF	同上
木	19:00～20:30	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Echo 1 (CLE International) 毎回仏検 3 級、準 2 級の準備、DELF A1, A2	同上
金	10:50～12:50	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Echo 2 (CLE International) Bande dessinée : Tintin Objectif Lune	同上
土	毎月 2 回 13:30～15:30	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Interprétation-Traduction	同上
日	毎月 2 回 10:30～12:30 (2/23, 3/29, 4/5, ...)	同上	オリヴィエ・ ジャメ	会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏検 読書/ DELF/DALF "	Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770(ジャメ)
日	偶数月第2日曜 14:00～16:30 (2/9 ...)	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Mélodies de Claude Debussy 「ドビュッシー歌曲」	同上 chemin-de-fer1435mist ral@docomo.ne.jp(水谷)
日	毎月 1 回 13:30～15:30 (2/23, 3/29, ...)	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Séance de lecture et de discussion : Articles de L'Obs (Nouvel-Observateur)	Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770(ジャメ)
火	毎月 1 回 14:30～17:00 (3/3, 3/10)	生駒市セイセイビル 2 階会議室	浅井直子	ブルースト読書会: 岩波文庫版『失われた時を求 めて』最終巻『見出された時 II』が昨秋刊行され、 全巻完結しました。読書会も大詰めです。	Nasai206@gmail.com 0743-74-0371 (浅井)
火	隔月 14:30～17:00 (7/7, 9/29)	生駒市セイセイビル 2 階会議室	浅井直子	7 月開講 「フランス文学への誘い」: 和訳テキスト を用いて、多様なフランス文学の作品を読解し、 作家についても学びます。	同上
火	毎月第 2 火曜日 13:30～15:00	京橋 studio-J	梨里香	フランス語で歌うシャンソン	studioj-nktj @occn.zaq.ne.jp 06-6922-6502 (中辻)
木	毎月第 1・3 木曜 18:00～19:30	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいレクチャー 中級以上の方対象 簡単な短編やニュースを講読します。	同上
火	毎月第 2・4 火曜 10:30～12:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいフランス語① 日常会話からフランス語の 基礎と文法を学びます。	同上
水土	毎月第 3 水土 午前, 午後	エコール・タンタン (奈良市西登美ヶ丘)	柳谷安以子	午前: 「世界のお茶講座」、 午後: 「フランス紅茶と楽しむデセールと焼き菓子」	aiko.tantan@ezweb.ne.jp 0120-44-0341 (柳谷)
水木	毎月第 4 水木 午前	エコール・タンタン (奈良市西登美ヶ丘)	柳谷安以子	「フランス地方菓子」	同上

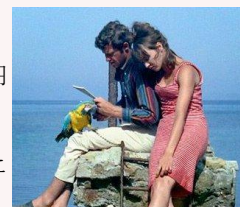
第3回 美術クラブ例会 講演会「モネとルノワール」(3/7) の案内

- ❖日時：2020年3月7日(日) 15:00～16:30 ❖会費：会員 200 円、一般 500 円
- ❖会場：ならまちセンター(近鉄奈良駅南東徒歩 12 分) 3F 会議室 2
- ❖参加費：会員 200 円、一般 500 円
- ❖参加申込：参加申込：sugitani@kcn.jp Tel. 090-6322-0672 (杉谷) 定員 27 名
- ❖例会終了後懇親会：自由参加。場所未定。各自負担。
- ❖講師：南城守(絹谷幸二天空美術館顧問)

❖講師からのメッセージ：印象派を代表する画家、モネとルノワール。モネは 1840 年、ルノワールは 1841 年生まれと同年代。2 人が活動した 19 世紀後半のパリは、万博による世界的な文化交流によって名実ともに近代化の波が加速し、多様な価値観と美意識が交錯する激動の時代だった。モネは風景画に、ルノワールは人物画にそれぞれのスタイルを確立し、後世に大きな影響を与えた。モネ 86 歳、ルノワール 76 歳と当時の画家として長寿であったが、2 人の晩年はモネは失明し、ルノワールはリュウマチによって身体の自由は奪われている。モネの夢見を誘う風景画や、ルノワールの健康に満ち溢れた人物画からは窺い知れぬ幾多の苦難の中で生み出された名作の数々。とりわけ、2 人にとって 1879 年は、その後の画家としての方向性を決定付けるかのような年だった。彼らに訪れた「歓喜、絶望、そして挑戦」のドラマとは…。奈良日仏協会美術クラブがご案内する「鑑賞のツボいろいろ話」と「至福の意見交換懇親会」で、早春のひと時を楽しみませんか。

**第53回奈良日仏協会シネクラブ例会(2/23)の案内**

- ❖日時：2020年2月23日(日) 13:30～17:00 ❖会場：生駒市セイセイビル 2 階 206 会議室に変更
- ❖プログラム：『気狂いピエロ』❖監督：ジャン＝リュック・ゴダール❖参加費：会員無料、一般 300 円
- ❖例会終了後「カルメシ茶屋」にて懇親会(例会・懇親会とも予約不要)
- ❖問合わせ：Nasai206@gmail.com tel. 090-8538-2300 (浅井) ❖南仏の海を背景に、ベルモンドとカリナの二人の俳優の個性が際立つ。斬新な映画作りで公開時も衝撃だったが、半世紀以上を経たこんにちも、カリナの天真爛漫な表情は色あせることなくスクリーンを輝かせている。



《2019 年度第 6 回理事会報告》……事務局 日時：2020 年 1 月 16 日(木) 15:00～16:50。
場所：放送大学奈良学習センター Z306 号室。出席者：三野、野島、浅井、藤村、中辻、高松、大内、喜多、藺田、三木、杉谷。議題 1. 2019 年度会員数：件数 95 件、1 月新入会員 2 名。議題 2. 11/21 理事会後の活動：秋の教養講座(11/23) 講師角田茂「脳の働きはこのようにして解明された」、第 144 回フランス・アラカルト「フランス・クリスマス菓子」講師柳谷安以子(12/15)。議題 3. 今後の行事：第 53 回日仏シネクラブ例会「特集：女優たちの輝き④アンナ・カリナ」(2/23)、美術クラブ第 3 回例会講演「モネとルノワール」講師南城守。議題 4. 2020 年度役員候補。議題 5. 年次総会・懇親会：2 月 11 日菜宴にて、2019 年度活動報告・決算報告・監査報告、2020 年度活動計画・予算、懇親会。議題 6. Mon Nara。議題 7. その他：桜井市とシャルトル市の文化交流活動の紹介。
次回理事会 3 月 12 日(木) 15:00～16:30。



編集後記 ☆梨の木 (poirier) は、4 月初め頃、可憐な白い花を枝いっぱい咲かせます。日本では、梅や桜に比べて、少しなじみが薄いかもしれませんが、中国では白居易の漢詩「長恨歌」の中で「梨花一枝春雨をおりたり」と、楊貴妃のような美人の涙する姿が、雨に濡れた梨の花に喩えられています。☆清少納言は『枕草子』で「長恨歌」をふまえながら、梨の花をむしる魅力のない女性の顔つきを皮肉ののに用いています。☆蕪村は「梨の花月に書(ふみ)よむ女あり」と俳句に詠み、月の光を頼りに文字を読む歌人の楚々とした美しい姿を、梨の花に喩えます。純白の梨の花びらが「白」を好んだ蕪村を惹きつけたのでしょうか。☆我が奈良県の大淀町大阿太高原では、明治時代から梨が生産されていますが、近年は梨の花の美しさを多くの人に知ってもらうために、梨の花を楽しむ文化を醸成して地域おこしにつなげようと、梨の花の街路樹の苗を植えたり、梨の花を愛でるイベントを開催するなど、様々な活動が行われています。☆フランスでは、ルイ 14 世が梨を好んだことから、ヴェルサイユ宮殿の近くにある「王の農園」で、いまでも様々な品種の梨が栽培されています。(N. Asai)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ、表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara 6 月号は **5 月 31 日**が原稿締切日です。
- ◆会員のみなさまで「**Mon Nara**」(2 月、6 月、10 月発行)又は「**Mon Nara 通信**」(4 月、8 月、12 月発行)に**チラシ同封を希望される方は**、1) 内容がフランスに関わるもの、2) 本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせ下さい。

Mon Nara 2020 年 2 月号 numéro292

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者：三野博司